

2017.10.22 年間第 29 主日

## 神のものは神に

マタイ福音書 22:15-21

(そのとき、) ファリサイ派の人々は出て行って、どのようにしてイエスの言葉じりをとらえて、罠にかけようかと相談した。そして、その弟子たちをヘロデ派の人々と一緒にイエスのところに遣わして尋ねさせた。「先生、わたしたちは、あなたが真実な方で、真理に基づいて神の道を教え、だれをものはばからない方であることを知っています。人々を分け隔てなさらないからです。ところで、どうお思いでしょうか、お教えてください。皇帝に税金を納めるのは、律法に適っているでしょうか、適っていないでしょうか。」イエスは彼らの悪意に気づいて言われた。「偽善者たち、なぜ、わたしを試そうとするのか。税金に納めるお金を見せなさい。」彼らがデナリオン銀貨を持って来ると、イエスは、「これは、だれの肖像と銘か」と言われた。彼らは、「皇帝のものです」と言った。すると、イエスは言われた。「では、皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。」

### 説教

「皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい」福音書のなかでも有名なところで聞いたことのある人も多いとおもいます。共観福音書(マタイ 22 章、マルコ 12 章、ルカ 20 章)のいずれにも同じ話が記録されています。

**彼らはこれを聞いて驚き、イエスをその場に残して立ち去った。** マタイ 22:22

きょうの朗読にはこの最後の 1 節が省かれているのですが、まさにこのイエスの返答には驚くしかありません。そして、この問題はいま現在になっても未解決のまま残されている、ただ「驚く」しかできていないのだとわたしは考えています。イエスだけがわかっていて、人類はこの問答の真の意味がわからず、驚くだけで、あいもかわらず立ち去るだけしかできないのです。

**皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。** マタイ 22 : 21

このことばから、政治と宗教は別の事、宗教は政治にかかわらない、政治は宗教に手をださない、というルール（解釈ともいえます）を人類は手に入れました。このルールは政治と宗教がいっしょくたの状態から政治的にも宗教的にも人間は独立できるのだという信念が一般的になってきて成立するルールです。比較的最近の考え方、近代主義と一般的にはいっています。日本の現状ではプロテスタントは政教分離派、近代主義の立場で、カトリックは控えめに政治にかかわる態度、ちょっと中間的な立場をとっています。もっともカトリック教皇は積極的に政治活動をおこなっているので日本のカトリックも政治に熱心な教会もあるようです。

きょうは日本の衆院議員選挙の投票日ですが、教会はどここの政党を支持するという声明を公にはだしません。教会としてはクリスチャンの皆さんは自由に投票してくださいということになります。つまり「皇帝のものは皇帝に、神のものは神に」政治は政治、礼拝は礼拝、という分離派の立場になります。投票日当日の礼拝説教では選挙、政治に関することはまず説教されません。でも今年は福音朗読が納税問題、政治問題の個所にあたりました。説教者のみなさん（私も含め）もいろいろ困っているのではないかと思います。

さて、福音には納税に関する記録があります。

**一行がカファルナウムに来たとき、神殿税を集める者たちがペトロのところに来て、「あなたたちの先生は神殿税を納めないのか」と言った。ペトロは、「納めます」と言った。そして家に入ると、イエスの方から言いだされた。「シモン、あなたはどうか。地上の王は、税や貢ぎ物をだれから取り立てるのか。自分の子供たちからか、それともほかの人々からか。」ペトロが「ほかの人々からです」と答えると、イエスは言われた。「では、子供たちは納めなくてよいわけだ。しかし、彼らをつまずかせないようにしよう。湖に行って釣りをしなさい。最初に釣れた魚を取って口を開けると、銀貨が一枚見つかるはずだ。それを取って、わたしとあなたの分として納めなさい。」** マタイ 17:24-27

いかにもイエスらしい頓智になっています。

地上の王は自分の子どもから税金を取り立てない、だから天の王の子どもである私たちも税金をはらわなくていい、でも彼ら（徴税人のこと、マタイも徴税人だったとされている）をつまづかせないために支払おう。だからペテロよ、釣りにいけ、釣り上げた魚から銀貨をとりだして納税しなさい。この頓智話というよりちょっとへんな話が福音で伝えられる納税に関する記録です。このまま受けとれば税金は支払わなくてもいいけれど、角がたつから、適当に支払っておけ、という薦めのようなのです。もちろんわたしたちが魚釣りに行っても魚から銀貨はでてこないの、実際のお金で納税しなければならなくなります。イエスだからこそできる節税？方法で、魚から銀貨という意味ではあまり私たちの暮らし（納税）の参考にはなりません。

「皇帝のものは皇帝に、神のものは神に」皇帝というのは地上の王のこと、地上での最高権力者ということになります。いまの日本の政治状況では民主主義という形式をとっていますので、建前としては地上の王は国民です。ただ国民に主権はありますが、実際には政府が執行します。政府の中の最高執行責任者が総理大臣であり、現実的には最高権力者となります。地上の王に対応する神となれば天の神さまとなります。王はただの人間ですが、もちろん神は人間ではありません。王と神とでは比べようがありません。日本の王はきょうの選挙結果しだいでいままでの安倍晋三から別の誰かに変わるかもしれないし、そうでないかもしれません。ふつうの感覚ではなかなかわかりづらいことですが、それが議会制民主主義なのでしょう。

比べようがないので困ってしましますが、あえていえば、皇帝＝地上の王を信じるのは、神を信じるという次元とは違う。王は人間なんだから神を信じるという意味では信じられない、となります。逆に言えば、わたしたちは信じることができない王に最高権力ゆだねているということでもあります。

**皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。** マタイ 22 : 21

イエスのことばはさらっとしてはいますが、驚くばかりの返答になっています。

-----